



※かわさきSDGs大賞2025受賞者の取組

Kawasaki City SDGs Guidance

～ 川崎市庁内SDGs取組の進め方 ～

Ver4.0

2026年3月 川崎市

事例抜粋版



KAWASAKI
SDGs

川崎市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

『川崎市庁内SDGs取組の進め方』は、**職員**がSDGsの本質と使い方を理解し、庁内業務を**プロモーション**、**連携**、**改善**することを目的に作成しました。2023年8月から運用開始し、2026年3月に**Version4.0**を発行しました。

川崎市職員脱炭素・SDGs自主行動宣言

「川崎市職員脱炭素・SDGs自主行動宣言」

- 本市は、2023年度より、庁内で実施したアイデア提案から全職員投票結果を踏まえて決定した「川崎市職員脱炭素自主行動宣言」を行ってきました。
- **2024年4月から「脱炭素・SDGs自主行動宣言」としてバージョンアップし、脱炭素及びSDGsの双方の推進を全庁で進めています。**

■ 宣言文 要旨（SDGs部分）

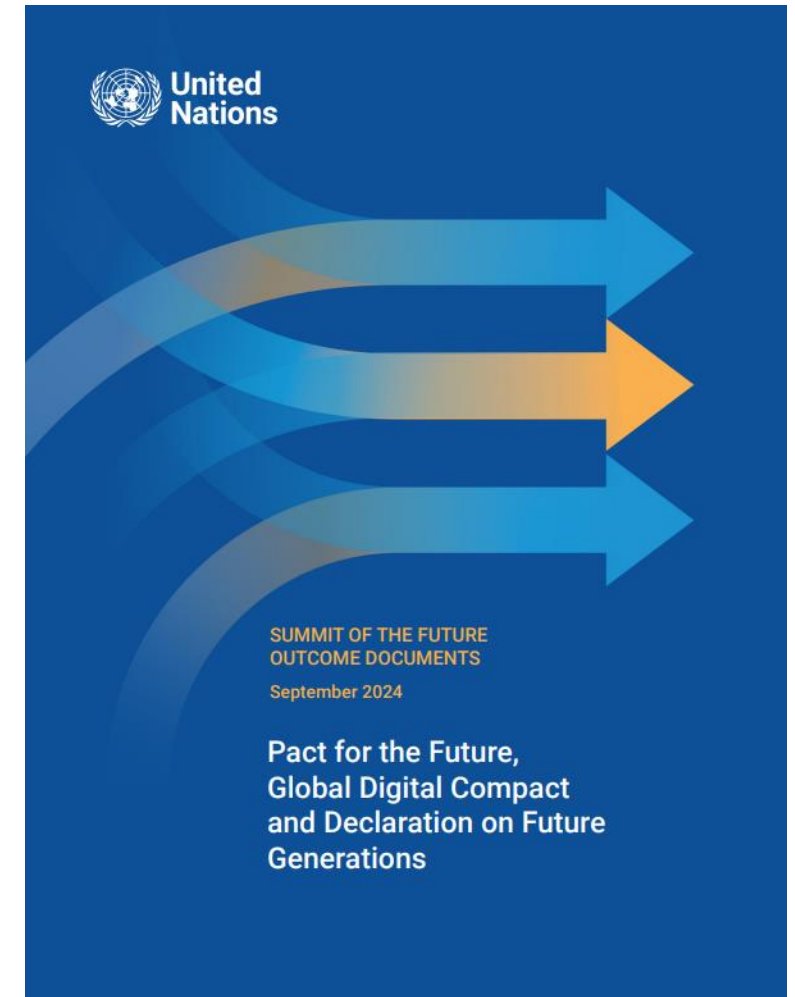
- ① 経済・環境・社会の**3側面**を意識した施策推進
- ② SDGsを踏まえた**情報発信・プロモーション**を意識した施策推進
- ③ SDGsを踏まえた庁内業務の**連携・改善**の促進
- ④ SDGsを踏まえた市民・事業者との**協働・連携**の促進
- ⑤ 人権配慮（性別, 国籍, 障害などへの配慮）や環境配慮など**基本的なSDGs配慮行動**の実践



(コラム) SDGsの次の議論

Column SDGsの次の議論って？

- 2016～2030年为目标期間であるSDGsですが、その前は**MDGs**（ミレニアム開発目標）という目標が掲げられていました。
- MDGsでは、貧困対策など8個の目標が掲げられ、多くの成果を出しましたが、同時に多くの課題も残り、それらを解決するためにSDGsが掲げられました。
- そして近年、2024年9月22日に開催された**国連未来サミット (Summit of the Future)**では、グローバル・デジタル・コンパクトと将来世代に関する宣言を含む「**未来のための協定 (Pact for the Future)**」が採択されました。
- この協定において、国連総会の支援の下、**ハイレベル政治フォーラムを2027年9月に開催し、そこで、2030年以降の持続可能な開発をどう進めていくかを優先事項として検討することが盛り込まれました。**



SDGsを「シティプロモーション」に活用

「シティプロモーション」としての活用イメージ

- 行政施策や事業者連携の事業等を情報発信するにあたりSDGsを意識して発信することで、当該取組とSDGsとの関連をより深く印象づけることができ、市内外のSDGs関心層への注目・関心を集めやすくなります。

SDGs経営企業事例集一部（2025. 2）



夏休み親子向け消費者講座チラシ一部(2025. 8)



SDGsを「インナープロモーション」に活用①

(1) 「インナープロモーション」とは

- 「インナープロモーション」とは、組織のブランド価値や理念について職員への理解醸成を図ることで、**職員の意思統一**や**意欲向上**を図るための**庁内向けのプロモーション活動**のことです。組織の方針と職員の思いが同じ方向に向くことで、**仕事の質と効率の向上につながります**。

(2) 「SDGs×インナープロモーション」

- 本『進め方』は**インナープロモーションの一環**であり、SDGsを通じた**職員の意思統一**や**仕事の魅力**を感じていただき、**働きがい向上**につなげていくことを目指しています。
- 2023年11月には、環境局と総務企画局の**庁内会議を合同開催**し、**脱炭素とSDGsの双方の意識付けを高める取組**を進めるなど、会議連携によるインナープロモーションの取組も行いました。

2023年11月開催 令和5年度第2回川崎市環境行政・温暖化対策推進総合調整会議 令和5年度第3回川崎市持続可能な開発目標（SDGs）推進本部 合同会議
第2部 専門家（高木超慶應義塾大学特任助教）によるビデオ講演「SDGsの捉え方・認識をより深めよう！」の様子



SDGsを「インナープロモーション」に活用②

(3) 「インナープロモーション」事例① (若手職員SDGs研修)

- 研修テーマ：『SDGsで仕事を横断！』（2025.7.25）
- 申込者：151人（会場26人、オンライン125人）
- 他都市視察：22自治体（会場2人、オンライン24人）

(特徴)

- 総務企画局、経済労働局、環境局、中原区役所の4局区連携によるSDGs事例紹介
- 複数自治体（22自治体）が本研修を視察
- 川崎市SDGs推進アドバイザー（北九州市立大学法学部 高木准教授）による特別講演・ワークショップを実施

(実施結果)

- 参加者の91%が「自身の思考の変化に繋がった（やや繋がった）」と回答。

SDGsを日々の仕事に活用する最新事例等を学び、ワークショップで活用例を話し合いました



SDGsで自分のキャリアを考えよう！

若手職員 SDGs 研修

昨年4月より、本市は「川崎市職員脱炭素・SDGs自主行動宣言」を開始し、庁内職員のSDGs意識醸成に向けた研修や事業連携等を進めています。この度「若手職員SDGs研修」を開催しますので、御案内します。

対象者

- ① 採用3年目職員研修対象者（総務企画局人材育成課 連携事業）
- ② 35歳以下の総務企画局職員（総務企画局庶務課 連携事業）
- ③ その他35歳以下の職員（全庁）

募集
開始

(3) 「インナープロモーション」事例②（プチ研修）

- 実施内容：『職員SDGsアンケート調査 及び プチ研修『SDGsクエスト』』
LoGoフォームを活用したアンケートの最後に、シミュレーションゲーム形式のプチ研修『SDGsクエスト』を実施
 - 実施対象：全職員
 - 実施期間：2025年10月1日～10月31日
 - 参加状況：3,093人（アンケート回答数は3,814人）
 - 他都市参加状況：33人（SDGs未来都市216都市へ案内）
- (実施結果)
- 参加者の94%が「とても良い（まあまあ良い）」と回答。



プチ研修は実施期間後も一般公開中

プチ研修受講者の声

- ・短時間でどこでも受けられるという点から受けやすい。
- ・SDGsの振り返りや新たに考えさせられる良い機会になった。
- ・具体的な事例で考えやすかった。
- ・日々の業務も選択によって結果が変わってくると改めて考えさせられた。

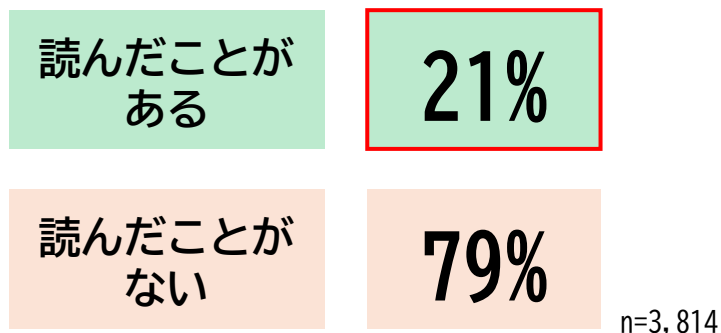


<https://logoform.jp/form/FUQz/726454>

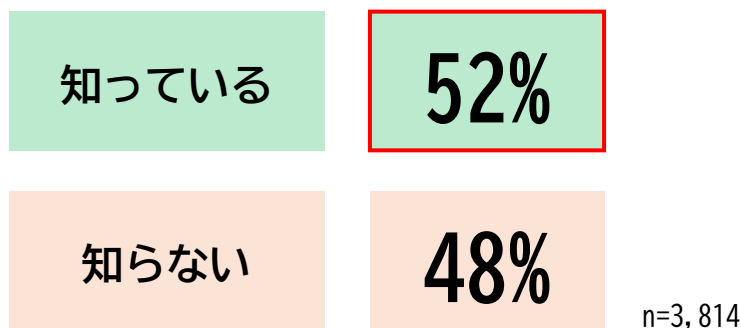
市職員SDGs意識 (2025.10アンケート調査結果)

- 実施対象 全職員（2024年対象外の会計年度任用職員等含む）
- 実施期間 2025年10月1日～10月31日
- 回答者数 3,814人（前年から900人増）

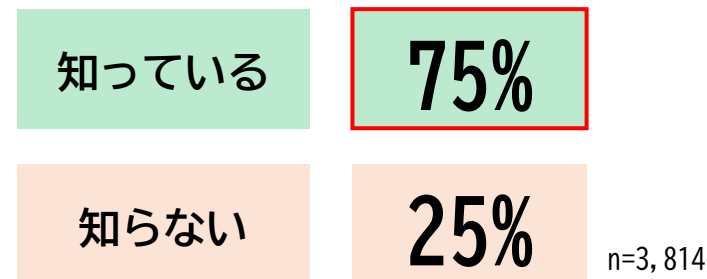
Q. 本『進め方』を読んだことがあるか？



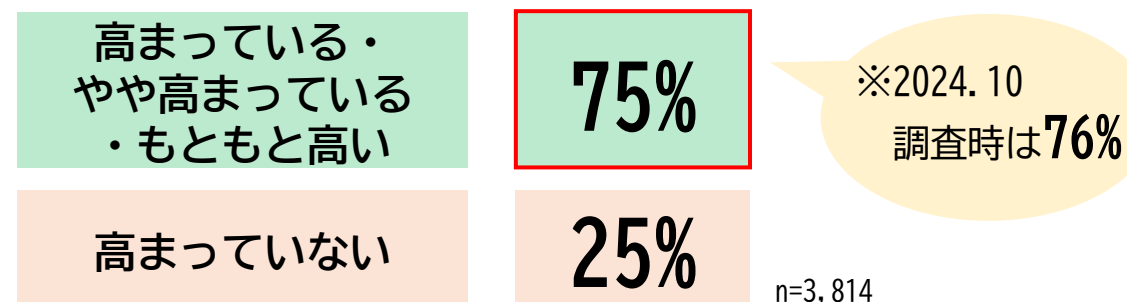
Q. 総合計画において、すべての事務事業をSDGsと関連付けていることを知っているか？



Q. R6.4に開始した『川崎市職員脱炭素・SDGs自主行動宣言』を知っているか？



Q. 自身の数年前と比べて、自身のSDGs意識が高まっているか？



Column 全国市区・SDGs先進度調査(ランキング)で川崎市が全815市区中6位にランクイン

- 日本経済新聞社が編集・発行する地方創生・地域経営の専門誌「日経グローバル」は、全国815市区を対象に「全国市区・SDGs先進度調査」を実施(隔年ペース)。
- 2024年秋の第4回調査では、**川崎市は全815市区中で第6位にランクイン。**
SDGs取組を先進的に進めている都市として高く評価されました。

総合順位(前回)	自治体名	得点
1位(前回2位)	豊田市	80.45点
2位(前回4位)	京都市	79.17点
3位(前回5位)	北九州市	77.80点
4位(前回1位)	さいたま市	77.57点
5位(前回5位)	相模原市	77.30点
6位(前回23位)	川崎市	77.08点
7位(前回13位)	宇都宮市	76.52点
8位(前回7位)	大阪市	75.65点
9位(前回3位)	福岡市	74.80点
10位(前回14位)	札幌市	74.47点



SDGsを意識した「事業改善・連携」の事例①

本編抜粋

(1) 効率的な連携事例（総務企画局×経済労働局×まちづくり局×企業・各実行委員会）



- 総務企画局では、100周年を契機に生まれた「Colors,Future!Summit」「みんなの川崎祭」や川崎駅周辺のまちづくりと連携し、官民連携でまちのにぎわいの創出や川崎の更なるブランディングをめざす取組を進めています。
- 2025年11月は、「101 - Next New Challenge - 次の100年へ向けた、新たな挑戦のはじまり」という共通テーマを掲げ、①「Colors,Future!Summit 2025」、②「みんなの川崎祭」、③「かわさき市民祭り」、④「川崎夜市」、⑤初開催の音楽ライブイベント「LIVE STOCK - KAWASAKI MUSIC JOURNEY - 」の5つのイベントを横断的に繋ぎ、「川崎 秋の5大イベント」として開催することにより効果的なブランディングに取り組みました。
- それぞれのイベントが取組の強みを生かしながら、一体となって成長を重ね、中長期的には川崎を代表する祭典へ発展することをめざします。



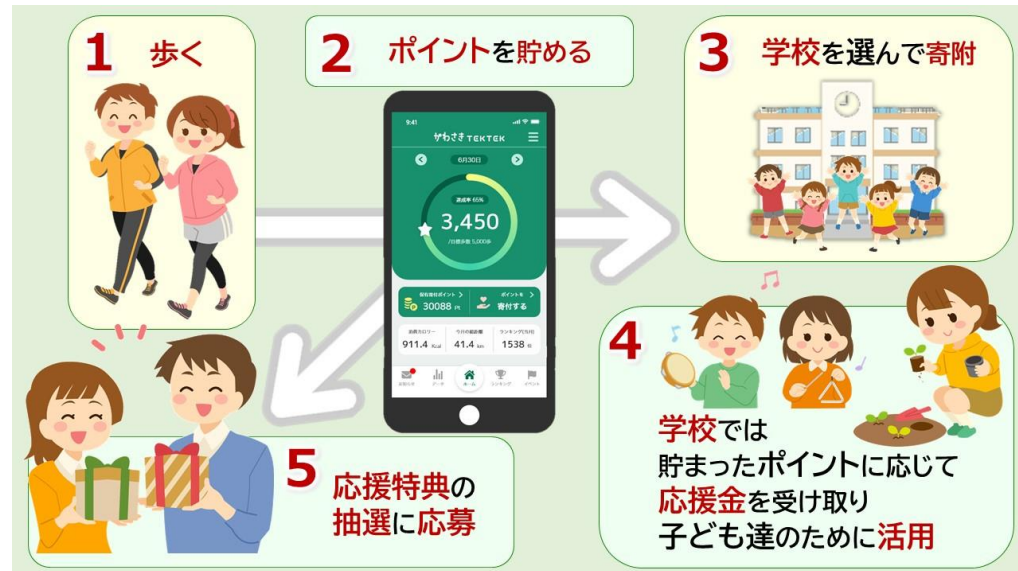
担当者のポイント

この日は川崎駅周辺のどこへ行っても楽しめる日！5大イベントの特設サイトを用意し、各イベント情報を紹介するほか、デジタルマップ&スタンプラリーを掲載し、「あちこち行ってみたくなる」よう工夫しました！

(2) 効果的な連携事例（かわさきTEKTEK×庁内・地域の企業等）



- 健康福祉局が実施する健康ポイント事業ではスマートフォン用ウォーキングアプリ「かわさきTEKTEK」を活用し、歩いて貯めたポイントを子ども達の学校生活を充実させるために利用することで、**健康と優しさが循環する「健康循環社会」の実現**をめざします。さらに各局や地域の企業との連携イベントを多数実施し、**相乗効果を生み出しています**。
- 連携実績(次ページ参照)



担当者のポイント

連携イベントにより、アプリ参加者は新たな川崎の魅力を再発見でき、イベントがアプリ新規参加のきっかけにもなっています。実際に地域を歩いたりグループ機能を使ったりすることで、「地域とのつながりづくり」の一助にもなっています。

SDGsを意識した「事業改善・連携」の事例②

➤ 連携実績（2025年度）

No.	連携先	連携イベント
1-01	(庁内) 総務企画局	自主グループ活動体験講座 【まち歩き体験コース】【日帰り旅倶楽部体験コース】
1-02	(庁内) 市民文化局	アートイベント『鉄道高架下のトンネル壁面に新たに完成したミューラルアートを楽しもう!』(Perfect Days KAWASAKI関連イベント)
1-03	(庁内) 市民文化局	かわさきミューラルアートさんぽ
1-04	(庁内) 市民文化局	アーバンスポーツを無料で体験できるイベント『Perfect Days KAWASAKI』(パーフェクトデイズかわさき)
1-05	(庁内) 経済労働局・市立川崎高等学校	川崎めいさんぽ 2026
1-06	(庁内) 環境局・大塚製薬株式会社	歩いて涼んでポイントGET! 『ちょこ涼TEKTEK』
1-07	(庁内) 健康福祉局	Anker フロントタウン生田 キッズスポーツフェスタ2025 supported by SOMPOひまわり生命
1-08	(庁内) 健康福祉局	川崎市スポーツフェスタ2025
1-09	(庁内) 健康福祉局	フレイル予防とお薬のセミナー
1-10	(庁内) 健康福祉局	セミナー「心臓病の基礎知識-疾患の種類、症状と治療、リハビリの重要性-」
1-11	(庁内) 健康福祉局	「かわさきTEKTEK感謝祭」in 大人の遊び場 学び場
1-12	(庁内) 健康福祉局	MIMOSA FESTA 2026
1-13	(庁内) まちづくり局	武蔵小杉の魅力を歩いて発見!
1-14	(庁内) まちづくり局	川崎市の新しい交通拠点『モビリティステーション』へ行ってみよう!【川崎区・藤崎】【高津区・橘公園】【川崎マリエン】
1-15	(庁内) まちづくり局	川羽歩撮 川崎×大田×羽田 フォト&ウォークラリー2026.3【川崎区・藤崎】
1-16	(庁内) 建設緑政局・川崎区役所	TEKTEK歩いて浮島町公園の魅力を発見! ~浮島町公園を歩こう、守ろう、楽しもう~
1-17	(庁内) 建設緑政局	協働花壇と生田緑地を巡る道
1-18	(庁内) 臨海部国際戦略本部	殿町国際戦略拠点キングスカイフロントから羽田空港へ~多摩川スカイブリッジでつながるイノベーション拠点の今を訪ねて~
1-19	(庁内) 川崎区役所	旧東海道川崎宿から川崎大師周辺コース
1-20	(庁内) 幸区役所	①ひなまつり和みさんぽ@幸区日吉合同庁舎、②日吉市×さくらフェスタ日吉@幸区日吉合同庁舎
1-21	(庁内) 中原区役所	プロレスラーが教える筋トレ教室
1-22	(庁内) 高津区役所	ボードレスリズムフェス in TAKATSU
2-1	(団体) 柿生中央商店会	禅寺丸柿まつり
2-2	(団体) かわさきジャズ実行委員会	熱帯JAZZ楽団コンサートinかわさきジャズ2025
2-3	(団体) 中原区商店街連合会	中原区商店街連合会ウォーキングラリー
3-1	(企業) 川崎アゼリア株式会社	アゼリアTEKTEK
3-2	(企業) キンコーズ・ジャパン株式会社	川崎駅前店10周年記念イベント~地域への還元と感謝をこめて~
3-3	(企業) 株式会社東急スポーツオアシス	ヨネッティー王禅寺「清掃ウォーク」
3-4	(企業) ハクジュプラザ川崎モアーズ店	理学療法士が同行する健康ウォーキングイベント
3-5	(企業) 明治安田生命保険相互会社	2025かわさきCityバーチャル健康ウォーキング
3-6	(企業) ユースキン製薬株式会社	ハンドエキスポ2025

SDGsを意識した「事業改善・連携」の事例②

例えば…

- 環境局や協賛企業と連携したポイントゲットイベント「ちょこ涼TEKTEK」では、外出時に気軽に立ち寄り涼める施設「かわさきちょこ涼(すず)」を参加者に周知するとともに、ウォーキングによって暑さ慣れを促し、健康増進を図りつつ、熱中症予防につなげています。
- まちづくり局と中原区役所と連携したスタンプラリー「景観ウォーク 武蔵小杉の魅力を歩いて発見！」では、武蔵小杉駅周辺の愛着や関心を深めてもらうため、市民一人ひとりの景観に対する捉え方を把握することを目的に実施しました。参加意欲向上のためのアンケート調査の景品を区の名産「桃の彩」とし、また、参加賞の景観カードを区の窓口で配布することで、400人以上の参加につながりました。
- 建設緑政局・川崎区役所と連携した「TEKTEK歩いて浮島町公園の魅力を発見！！」では、森と海に囲まれた浮島町公園で、公園をもっと身近に感じ、気軽に関わるきっかけづくりとなる「イドバタパークデー」や、自然素材を使った体験型のイベントをかけ合わせ、公園の新しい魅力をより多くの方々に知ってもらい、「みんなが気持ちよくいきいき過ごせる公園」の実現に向けて取り組んでいます。



SDGsを意識した「事業改善・連携」の事例③



(3) SDGs情報連携事例③ (総務企画局×全庁)

- 総務企画局では、3,500者を超えるかわさきSDGsパートナーに対し、定期的に情報発信を行っており、**2023年度から**庁内のSDGs関連事業と連携し、**各局区が進めるSDGs関連事業に関する情報発信**を進めています。(2025.4.1～2026.3.25 配信件数：73件(13局区))

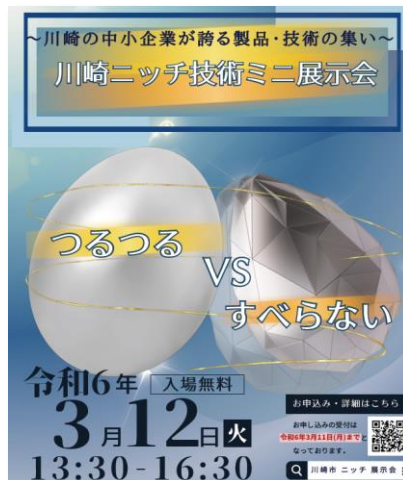
2025年度の実績・効果(例)

事例	配信時期	配信した事業	事業所管	本配信効果	事業全体実績
1	2025年5月	「新百合ヶ丘駅周辺クリーンアップ大作戦」の開催について	麻生区役所	2者、5人	事業者31者、参加者225人
2	2025年6月	ワークショップ「れきしのナゾに挑戦！」参加者募集中！	総務企画局	4人	23人
3	2025年6月	第18回川崎国際環境技術展の出展者を募集します！	経済労働局	2者	120者
4	2025年7月	中小企業ESG経営実態把握調査へのご協力をお願い	経済労働局	19者	146者
5	2025年8月	「第23回たまたま子育てまつり」への協賛をお願い	多摩区役所	3件	11件
6	2025年10月	「都市緑化月間」及び「川崎市緑化基金」のお知らせ	建設緑政局	寄附1件	年間20件(見込)
7	2025年10月	かわさきSDGsパートナー制度に関するアンケートのお願い	総務企画局	172者	172者
8	2025年11月	「かわさきTEKTEK」企業登録でSDGsに取り組みませんか？	健康福祉局	4者	158者
9	2025年11月	なかはらSDGsまつり2026の出展者募集	中原区役所	6者	11者
10	2026年1月	「かわさきTEKTEK」第3回企業対抗ウォーキング大会のお知らせ	健康福祉局	1人	175人
11	2026年3月	中原ぼうさい講演会の参加者募集	中原区役所	3人	55人

(1) 技術連携事例① (経済労働局×地域の企業×自治体間連携)



- 経済労働局では、2024年から特定の市場や分野に特化したニッチでキャッチーなテーマの展示会「川崎ニッチ技術ミニ展示会」を**予算ゼロ、関係団体との連携による手作りで開催し、市内中小企業が誇る製品、技術のPRや関係企業のネットワーク構築を図っています。**
- テーマ範囲をあえて絞ることで、市内中小企業のニッチ技術の掘り起こし、PRにつながっています。また、**テーマ範囲に対し興味関心を持つ企業等の来場が期待できる**ことから、具体的な協業等の話題につながりやすくなります。
- 市内中小企業の製品・技術をPRするとともに、「産業のまちネットワーク推進協議会」にて日頃から情報交換を行っている大田区、品川区の企業や、「産業連携に関する基本協定」で連携している富士宮市の企業に参加いただき、他都市企業も含めた**企業同士のつながり形成し、中小企業のサプライチェーン強化**を図ります。



担当者のポイント
企業活動に市域は関係なし！
市内企業の優れた製品・技術を自治体間連携を効果的に使って広めることは、地域経済の活性化につながっています。

(2) 技術連携事例② (環境局×臨海部国際戦略本部×企業)



- 環境局では、2050年までにカーボンニュートラルの実現を目指すために、**企業等と連携して、ごみ焼却による排ガスからCO₂を分離回収し、利用・貯留する「CCUS」※**の導入に向けて取組を進めています。

※ CCUS: Carbon dioxide Capture, Utilization and Storageの略語。

- CCUSは、工場などからの排気ガスに含まれるCO₂を分離回収し、資源として作物生産や化学製品の製造に有効利用、または地中に貯留する技術で、**再エネ等を活用した温室効果ガス排出量削減だけでは脱炭素化が困難な分野**(鉄、化学、セメント、石油精製等)**においても有効な手段**であるため、国や企業、大学等で、研究が進められています。
- 浮島処理センターでは、2024年3月からCCUS技術導入に向けてプラントメーカーと共同研究を実施してきましたが、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構のグリーンイノベーション基金事業にて研究開発する企業と協力し、2026年3月から**膜分離法を用いてCO₂を分離回収する実証試験を開始**しました。
- 回収したCO₂については、有効利用等を行い、**川崎臨海部における炭素循環型コンビナートを目指して取組を進めます。**



担当者のポイント

ごみ焼却による排ガスから膜分離法を用いてCO₂を回収する試みは、**国内初**の取組です。膜分離法は、従来技術より**省スペース・省エネ・低コスト**な技術です。

(3) 市内連携事例① (市民文化局×建設緑政局×まちづくり局×企業)



- 市民文化局では、本市の「若い人が多い」「若者による文化が盛んである」特徴を活かし、「若い世代が集いにぎわうまち」をめざした取組を進めています。
- 京急川崎駅前の若者文化創造発信拠点「カワサキ文化会館」の閉館に伴い、その機能を引き継ぐ新たな施設として、民間企業のノウハウを活かしてバスケットボールコートやダンスに利用可能なスタジオ等を整備した「カワサキ文化公園」が2025年9月にオープンしました。アーバンスポーツの新拠点として新たなまちの魅力につながっています。
- この公園は国道409号の低未利用となっていた道路予定地を、まちのにぎわいを生み出す空間へと有効活用しています。公園の一角には、水素関連事業を手掛ける企業により水素発電装置が設置されるなど、駅周辺のまちづくりとの連携を見据え水素エネルギーを活用した持続可能な社会の実現に向けた取組も行われています。



グリーンコート「カワサキ文化公園」



アーバンスポーツの無料体験イベント

担当者のポイント

アーバンスポーツの新拠点「カワサキ文化公園」で、アーバンスポーツの無料体験イベントなどを開催中です！

駅周辺のまちづくりとの相乗効果を図っていきます。

(4) 市内連携事例② (教育委員会事務局×総務企画局×スポーツパートナー)



- 教育委員会事務局では、スポーツパートナーによるSDGs活動、子どもたちが「世界へ挑戦する勇気を育むとともに、自分らしい生き方を考える」ことをめざした、キャリア在り方生き方教育副教材「KAWASAKI GLOBAL CHALLENGE NOTE」(グロチャレノート)の作成をサポートし、2025年9月に市立小学校と特別支援学校、全118校の5・6年生の児童に配布しました。
- 副教材には、キャリア在り方生き方教育の3つの視点「自分をつくる」「みんな一緒に生きている」「わたしたちのまち川崎」から構想された10個のセクションがあり、世界との接点を持つ選手たちの生い立ちや経験を学ぶことにより、子どもたちが自身の夢を考えるきっかけづくりや海外の文化や考え方に触れる機会の提供となっています。

贈呈式を開催した下小田中小学校では、プロチームで活躍する選手による実演や子どもたちとの交流試合なども実施！



担当者のポイント

選手やスタッフのインタビュー動画を通して、多様な人々との関わりや自分の将来について考える機会を提供する副教材となりました。



(5) 庁内連携事例③ (消防局×健康福祉局×民間福祉施設)

- 消防局では、高齢者等の救急搬送における**関係機関との協働に向けた取組として**、消防局救急隊員、健康福祉局専門職等職員、民間ケアマネージャーの参加する**研修を実施**しました。
- 救急現場では、傷病者本人が搬送を辞退する場合や、認知機能低下が疑われる場合等に、救急隊から地域の関係者に連絡を入れ、現況の聞き取りや救急車への同乗を求めています。
- 救急と介護福祉の現状、現場の困り事、医療と介護の視点からの地域包括ケアシステム等に関する講義を、事例を用いたグループワークで研修することで、**増加が見込まれる高齢者救急にかかわる各職種それぞれの立場による事情を共有し、スムーズな連携に向けた関係性の構築**を図りました。

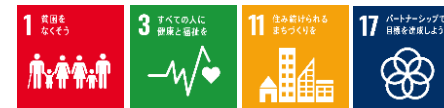


研修の様子



担当者のポイント

救急現場で関係機関がどのような協力を求められているのか、お互いに認識する機会となるとともに、介護現場の課題感についても共有することができました。



(6) 地域連携事例① (健康福祉局×市民文化局×地域の団体・企業等)

- 健康福祉局では、「人生100年時代に備える地ケアフェア」を、**地域包括ケアシステムの推進を目的とした連絡協議会に参画する団体、企業とともに開催**しています。
- 3回目の開催となる2025年11月の開催では、「**趣味でつながる 未来にそなえる**」をテーマとして設定し、椅子ヨガやボイストレーニング、苔玉づくりなど、**新しい趣味に挑戦**したり、介護・認知症・終活などの**将来への備えについて学ぶ**バラエティに富んだ31の講座・ブースを展開しました。また、市民文化局が進める「まちのひろば」の講演会を会場内で開催しました。
- 参加することで**自分の健康や地域とのつながり、自分や家族の備え・安心へのきっかけとなるイベント**となりました。



担当者のポイント

趣味を楽しみに来た人にも、将来への備えや地域とのつながりについて知ってもらえるイベント内容に！

(7) 地域連携事例② (幸区役所×地域包括ケア×公園×町内会×地域の企業)



- 幸区役所では、地元町内会と地域のスーパーマーケット、社会福祉協議会が協力した取組として、2025年11月に「古市場ほほえみ公園」での移動スーパー(スーパーマーケットの移動販売)を試行実施しました。
- 高齢者の買物不便の解消や外出機会の創出、近隣住民の交流促進、公園のにぎわい創出を目的として計4回実施したところ、生鮮食品やお惣菜、日用品等約500品目の品揃えもあり大変好評で、公園を利用する子育て世代と地域との関わりづくりのきっかけにも寄与しました。
- 今後は、試行実施を進め、効果検証を行うとともに、運用ルールを明確化していく予定です。



移動スーパーの試行実施



豊富な品揃え

担当者のポイント

地域からの要望を実現可能な形に検討。地域包括ケアとして、局間連携、地域連携を進めました。本格実施に向けては、運用ルールを明確化する必要があります。

(8) 地域連携事例③ (宮前区役所×アート・フォー・オール)



- 宮前区には、アーティストとして活動している区民が多い一方、こうした活動や作品を発表する場所が少ないことが課題になっています。
- こうした課題等を踏まえ、区民との協働で区の魅力を発信する市民提案型事業において、2025年8月から3か月間、区役所等を美術館とする取組が行われ、約100点の作品を展示したほか、アートに関連するワークショップなど、様々な取組を実施しました。
- さらに、アートを通じて様々な方がつながるまちをめざし、2026年3月にはLoGoフォームを活用し、「宮前区役所つながるオンライン美術館」を開設しました。
- このサイトでは、オンラインで作品を鑑賞するだけでなく、「お気に入り作品を店舗等に展示したい」などの貸出展示の申し込みを行うことができる仕組みを試行的に実施し、地域で活躍する人材発掘やさらなるまちの魅力向上が期待されます。



担当者のポイント

クリエイティブな活動をしている住民の多い宮前区の特徴を活かし、プロ・アマ問わず、区民が活躍する場を創出！
つながりが広がり、さらなるまちの魅力に！

庁内SDGsの「先進事例や身近な事例」⑨

(9) 地域連携事例④（麻生区役所×地域包括ケア×地域の企業等）



- 2023年度に厚労省が発表した「令和2(2020)年市区町村別生命表」で、麻生区が**男女とも平均寿命が全国で最も長い**、という結果となりました。一方で、2022年度の国民健康保険の特定健診の結果では、麻生区には神奈川県や市全体と比較して、「**LDLコレステロール値の高い人の割合が多い**」、「**拡張期血圧(下の血圧)の高い人が多い**」などの傾向があることが分かりました。
- 平均寿命が長いことだけでなく、**生き生きと暮らし続けるために、区内に6か所あるスポーツ施設に着目し**、健康状態のチェックと結果に合わせた個別のアドバイスを受けることができるイベント「**あさおの保健室**」などの取組をスポーツ施設と連携して実施しています。
- 2024年度からは「健康支援」をテーマとするイベント「**あさお地域健幸フェスタ**」を連携先のひとつである**スポーツクラブが主催**して開催しています。**地域の企業や団体が協力し**、自宅でできる簡単トレーニングや健康クイズなど、子どもから高齢者まで**楽しみながら健康づくりに取り組める**内容を提供しています。



あさおの保健室



担当者のポイント

区民の健康意識の高さが長寿日本一につながったと考えていますが、若い世代から健康を維持できる習慣を身につけてもらえるよう、楽しい催しを地域の企業等と開催し、地域のつながりを深めながら健康長寿をめざします。



2030 川崎から未来へ



2026年3月 川崎市

